令和５年 10 月 21 日

二郷半領と下総国

小林　將

はじめに

1、下総国（しもうさのくに）とは

・昨年の NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」
　下総国：千葉常胤（俳優・岡本信人）。上総国：上総広常（俳優・佐藤浩市）
　安房国：源頼朝上陸地
・駅名：JR 下総中山駅（総武線）
・江戸期の下総国：「千葉県北部」「茨城県南西部」（結城市・古河市・取手市）
　→「国境」は利根川ではなかった。

2、JR 両国駅（総武線）とは

・江戸初め、隅田川が「武蔵国」「下総国」の国境。それで両国。
★寛永年間（1624～1643）あるいは貞享３年（1686）に南葛飾郡（江東区・墨田区・江戸川区・葛飾区）が武蔵国に編入され、江戸川が国境（JR 小岩－JR 市川）。
・・・・資料１

3、二郷半領に残る下総国　・・・中世

（1）時代　　★西暦 1600 年を起点。
①中世　　→　「国境」は中川。
・香取神宮（下総国一之宮）　　・・・・資料２
・戸ヶ崎匝瑳（そうさ）氏
②江戸初め　→「国境」は江戸川。
・編入：二郷半領も同様に武蔵国に編入された。

＜私見＞大広戸

●大広戸は「寛永元年（1624）」に新田開闢。村の鎮守「香取社」、下総国一之宮香取神宮を勧請。祭りが「蛇祭り」、下総国内「辻切り」の類型と見做される。すなわち、

「寛永元年（1624）」には、まだ二郷半領は「下総国内であった」ことの証左。

（2）遺構・史跡

①三郷市指定文化財

・鰐口（昭和 50 年 2 月指定）天正 10 年 6 月（1582）

②香取神社（下総国一之宮）　・・・・資料 3

③辻切り・オビシャ（下総国の祭祀）　・・・・資料 4

④寺院　下総国真言宗東福寺（流山市）が本寺。圓明院（彦成）が末寺。

・圓明院：末寺 39 ヶ寺を支配。

＜私見＞オビシャ

・お宮、社（やしろ）→祭り→辻切りの変形（石鳥居）とオビシャ

・真言宗：宝篋印塔、江戸石仏

●信仰、文化、風習（言葉・食生活・祭祀等）は下総国と同じであった。江戸期を通じて、精神風土は「下総国内そのもの」であったと考えている。

4、江戸時代の下総との濃厚な関係性・・・江戸期

（1）交通（橋・渡し）・・・頻繁な往来（人・物・金）、生活圏であった。

・現代：流山橋。三郷流山橋（本年 10 月開通）

・江戸期：江戸川に多数の「渡し」

「流山：三郷・吉川の渡し」８か所の渡し

幸房の渡し、丹後の渡し、加村渡し（前間）、羽口の渡し（三輪野江）　・・・・資料 5

（2）信仰の旅・行楽の旅・・・目は下総に向いていた。

●諏訪神社（千葉県流山市駒木）：「駒木のおすわ様」「諏訪道」（流山→諏訪→布施）

★石の道標「すわ大明神」（茂田井・文政 8 年〈1825〉）

●布施弁才天（東海寺・千葉県柏市）

★石の道標「成田山」「（左）ふせ弁才天みち」（小松川・文政 4 年〈1821〉）

●成田山（新勝寺・千葉県成田市）　元禄 16 年（1701）江戸出開帳開始。

歌舞伎市川団十郎家の存在（屋号「成田屋」）

（令和 5 年節分会・歌舞伎俳優の十三代目市川團十郎白猿さんや大相撲の高安関らが、豆まき）

★石の道標「成田山講中」（早稲田・文化 13 年〈1816〉）

★石の道標「成田山」（笹塚・不動明王像・文化 10 年〈1813〉）

★石の道標「成田山講中」（彦倉・文政 6 年〈1823〉）

★石の道標「成田山」（采女・不動明王像・元治元年〈1864〉）

＜私見＞三郷の道

道標から「道」が浮かびあがる。２ルートあり。

①草加・八潮方面→中川（渡し）→彦成→南蓮沼→笹塚→茂田井→丹後の渡し

②草加・八潮方面→中川（渡し）→彦倉→南蓮沼→笹塚→茂田井→丹後の渡し

彦倉：右・成田→　南蓮沼：右・成田流山道→　笹塚：東・成田山→

茂田井：ひだり・すわ大明神→　丹後：わたし場へ一丁半　なりだへ十三里

●行程：二郷半領内→江戸川（渡し）→流山→諏訪神社→布施弁天→利根川（船）→

安食（あじき）上陸→成田山　→香取神宮

5、「令和４年９月発見」

（1）布施弁天と二郷半領・・・布施弁天の繁栄を二郷半領が支えていた。

・千葉県の布施弁天（柏市）

・江戸期の布施弁天：関東三大弁才天

・昨年発見した古文書（旧大膳村〈三郷市新和〉名主家文書）

★**「布施弁才天樓門銅瓦石垣寄進性名帳」**（文化７年〈1810〉）　←三郷市側史料

「楼門」は千葉県指定有形文化財。「寄進者の名前」はなし。

・布施弁天の石垣に残る二郷半領民　←千葉県側史料

石垣（文化 11 年〈1814〉）。村数 23 ヶ村。人名 22 名

・布施弁天に在る古い石碑を発見！

★**「奉納石」**（寛延２年〈1749〉）「二郷半巳待講　**林三千坪　寄附**」人名 27 名

→これが、布施弁天の支援以上の大事なことを伝えました。

＜私説＞信仰の変遷

・二郷半領に古い講中・巳待講の存在。

・巳待講（みまちこう）：寛延２年（1749）　半田村願主・中村仲右衛門。

・石垣に在る人

天明６年（1786）★皿沼・岡田儀右衛門。

文化 11 年（1814）半田・中村仲右衛門

・二郷半領の歴史

安永６年（1777）水害→　幕府勘定奉行所に直訴→　天明３年（1783）～「石祠（水難除）水神宮」の造立ブーム

（天明年間：6 年間で◆総数 34 基：三郷市 16 基、吉川市 18 基）

（近隣天明年間：八潮市 0、市川市 0、松戸市 1、流山市 2、野田市 2）

「どうして（原因）」「「誰が（推進母体）」「なんのために（目的）」が謎。

・直訴の二郷半領惣代（二郷半領 56 ヶ村代表）
★皿沼村・岡田儀右衛門。
・天明４年（1784）半田に「石祠水神宮」造立。
発願主★皿沼村・岡田儀右衛門
●信仰の変遷。石祠・水神宮を推進した母体
「巳待講」、「石垣」に残る名前、「石祠水神宮」がここにつながりました。
その結論です。
二郷半領内の「巳待講」が母体になり、「水神信仰」につながり、天明年間の石祠水神宮造立の展開となっていった。
・巳待講（巳・蛇）→弁天信仰（蛇は神使）（豊穣・水の恵み。穏やかな神さま）
→水神信仰（畏敬・畏怖の対象。荒ぶる神）→石祠水神宮（民衆の祈り・水難除け）

（2）舟運・東海寺のその後　　・・・・資料６

・・・・・・・

＜私説＞二郷半領の豊かさの表明

・寛延２年（1749）布施弁天へ一大寄進　（村数 21 村。人名 27 名）　資力大◎
・安永６年（1777）　◆水害で疲弊・直訴（年貢の減免）　資力なし▲
・天明２年（1782）～8 年（1788）◆「天明の大飢饉」
・天明３年（1783）　◆「浅間山の噴火　→水害多発」
・天明３年（1783）～8 年（1788）石祠水神宮の造立（村数 34 村）　資力あり○
・天明４年（1784）　半田・石祠水神宮造立　資力あり○
・天明６年（1786）布施弁天石垣完成。一大寄附　（村数 40 村。人名 70 名）資力大◎

おわりに

・現在は「埼玉県」「千葉県」と違う県です。
・昨年まで、「布施弁天（千葉県柏市）と二郷半領民との関係」について知りませんでした。江戸期、二郷半領は、布施弁天の信仰圏かつ大切な経済基盤であったこと。
加えて、「江戸川の渡し・諏訪道・三郷市内の石の道標」についても初めて分かりました。
・明治期以降、政府の国策（富国強兵・殖産興業）のもと、「違う県」として中央集権化。鉄道が敷かれ「渡し」も廃止。日常生活の交流も途絶えて 155 年。「布施弁天の存在」も忘れ去られ、その栄枯盛衰も見ました。
・その中で、今も歴史を留めているもの（下総国の遺伝子）が「香取神社」「祭祀」。
・「成田山新勝寺」（不動尊信仰）は、次回以降に。

＜資料１＞

1、「江戸時代の村」（江戸川区郷土資料室） 平成 25 年 4 月 1 日

・江戸時代の初期、「江戸川区の地域」は「下総国」に属していました。現在の隅田川が武蔵国との境でした。万治２年（1659）の架橋された「両国橋」の名がそれを示しています。東葛西２丁目渡辺家に残る元和８年（1622）の検地帳にも、「下総国勝鹿郡（かつしかぐん）東葛西内長嶋領」と記されています。

・元禄８年（1695）以降の検地帳では「武蔵国」になっていますから、元禄以前に隅田川から現在の江戸川に国境が移されと考えられます。

2、「香取神社の由緒」（『埼玉の神社』 平成 4 年）

●上彦名香取神社の由緒

・当地は、中世、「彦名の関」が設置されており、交通の要衝として栄えた。
至徳 4 年（1387・南北朝時代）の大中臣長房譲状（『香取神宮文書』）には、「（しもうさのくに）しもかわべのうち『ひこなのせき』」と見え、香取神宮がこの関を管理していたことを載せている。

・「彦名の関」が香取神宮の支配下に置かれ、関銭の徴収などの関務が整備されるに随って本社の分霊が奉斎されたものと考えられる。

●彦川戸香取神社の由緒

●戸ヶ崎香取神社の由緒

3、「二郷半領の香取社（香取神社）」・・・三郷市のみ

＜私見＞

・本田方は「香取社」。新田方は「稲荷社」。そして、「祭り」。このことは、二郷半領内に「石鳥居」が多いことと、「狛犬」がいないことに影響を与えている。

・それは、祭祀に必要である鳥居は「石造」（木造でなく・ここに藁蛇を巻き付ける）。現在でも◆江戸期石造鳥居が 21 基もある（うち三郷市 16 基）。

・香取社の本宮・香取神宮にはそもそも「狛犬」がいない。稲荷社の「神の使い」（しんし）は、狐である。よって、江戸期に二郷半領内で「狛犬」造立のニーズがなかった。

＊香取社と稲荷社のみを掲載　　★中世からの古村

本田方	村の鎮守	現在の神社	新田方	村の鎮守	現在の神社
★彦糸（三郷市）			半田（三郷市）	稲荷社	
彦音	**●香取社**	彦音香取神社	★前間	稲荷社	
★彦成	**●香取社**	彦成香取神社	小谷堀	稲荷社	（前間）
★上彦名	**●香取社**	上彦名香取神社	後谷	稲荷社	（前間）
★上・下彦川戸	**●香取社**	彦川戸香取神社	丹後	稲荷社	（前間）
★彦野			采女新田		（彦糸）
★彦倉			田中新田		
★駒形			大広戸	**●香取社**	大広戸香取神社
笹塚	山王稲荷合社	（駒形）	仁蔵	稲荷社	（大広戸）
蓮沼	稲荷社		幸房	**●香取社**	
上口	**●香取社**	上口香取神社	茂田井	稲荷社	（幸房）
★番匠免			岩野木		（幸房）
★彦沢	**●香取社**	彦沢香取神社	谷中	稲荷社	（幸房）
彦江	**●香取社**	彦江神社	市助	稲荷社	（幸房）
★花和田	**●香取社**	花和田香取神社	大膳	稲荷社	（幸房）
谷口	稲荷社	（花和田）	八丁堀	稲荷社	（幸房）
境木	稲荷社	（花和田）	一本木		（高州）
酒井	稲荷社	（花和田）	横堀	稲荷社	（高州）
★戸ヶ崎	**●香取社**	戸ヶ崎香取神社	長戸呂	稲荷社	（高州）
前谷	稲荷社	（戸ヶ崎）	樋ノ口		（高州）
前川	稲荷社	（戸ヶ崎）	下新田	稲荷社	（高州）
寄巻		（戸ヶ崎）	徳島	稲荷社	（高州）
鎌倉	稲荷社	（戸ヶ崎）	小向	稲荷社	（高州）
三九	稲荷社	（戸ヶ崎）			
長沼	**●香取羽黒合社**	（戸ヶ崎）			
★高須	**●香取社**	高須香取神社			
久兵衛	稲荷社	（高州）			

4、「三郷市の祭りと下総国内」

＊下総国内オビシャ・辻切りと比較

月	祭りの名称	開催場所	備考	下総国内名称
1月	あられ祭り　（オビシャ）	**香取神社（彦成）**	弓取りの儀	オビシャ
	＊大広戸の蛇祭り（オビシャ）	**香取神社（大広戸）**		▲辻切り
	彦糸の蛇祭り　（オビシャ）	女体神社（彦糸）		▲辻切り
	上彦名の春祭り　（オビシャ）	**香取神社（上彦名）**	弓取りの儀	オビシャ
	彦音の春の祭典　（オビシャ）	**香取神社（彦音）**	弓取りの儀	オビシャ
	彦倉の蛇祭り　（オビシャ）	子之神社（彦倉）		▲辻切り
	備社祭り　（オビシャ）	**香取神社（戸ヶ崎）**	弓取りの儀	オビシャ
2月	谷中の蛇祭り　（オビシャ）	稲荷神社（谷中）		▲辻切り
	市助の蛇祭り　（オビシャ）	稲荷神社（市助）		▲辻切り
	八丁堀の蛇祭り　（オビシャ）	稲荷神社（八丁堀）		▲辻切り

＊「埼玉県指定・選択文化財」

・選択（無形民俗）：三郷市のオビシャ・大広戸香取神社（平成 14 年 3 月 22 日指定）

＜私見＞祭祀

・そもそも下総国の信仰行事であった。「香取社」を舞台とした。そこに付随した祭りといえる。違和感のないもの。それは下総国内であったから。

5、江戸川の渡し

「流山の渡し物語」・・・『江戸川図志』山本鉱太郎・平成 13 年・崙書房）

流山に入ると、すぐ「深井新田の渡し」があった。「尼谷（あまや）の渡し」（天谷の渡し）もあった。・・・渡し賃は大正の中頃で大人が 2 銭、昭和 7、8 年頃で 5 銭、里人は無料。

流山にはほかに、「上新宿新田渡し」、「南下（みなみした）の渡し」、「羽口（ばぐち）の渡し」、「加村渡し」、「丹後の渡し」、「幸房の渡し」などがあった。

「南下の渡し」は一名「半割の渡し」ともいう。対岸の埼玉県側が半割だからである。

「羽口の渡し」は「バグチの渡し」ともいわれた。慶応 4 年（1868）4 月 3 日、官軍の香川敬三らは、新選組の近藤勇を捕縛するためにここを渡っている。

★江戸時代、今では想像もつかないほど埼玉県側との往来は盛んであった。対岸に広大な新田が多かったため、舟で耕作に行く者もあり、中には埼玉県側に住みついてしまう者もいた。今は「埼玉県三郷市」になっている八木里も、かつては流山の八木村から開拓に出かけて定住した土地である。

「丹後の渡し」が、昭和 10 年旧流山橋が架かってもなお残っていた。丹後とは埼玉県側の地名である」。

「水運で栄えた流山」・・・(『新利根川図志』下　山本鉱太郎・平成 10 年・崙書房)

★昔は、江戸川の対岸（埼玉県側）の農家の人たちも馬の背に米俵や雑穀、卵などを乗せては、馬船で流山に来て問屋に売り、帰りにはその金で乾物や桶などの食料品や日用雑貨、呉服屋で娘や妻の衣類を買って帰ったもの。

流山は米や雑穀や乾物などの物資がどんどん集荷されれば、米蔵も出来るし、商人や船頭、旅人相手の料理屋や宿も大繁盛。その上味醂や酒、醤油、味噌などの醸造業も盛んで、江戸にも相当出荷された。

流山は日本で有数の味醂の産地で・・・味醂は高瀬舟に乗せて日本橋の小網町へと運ばれ、ここから江戸市中へと売り出された。

★こうして栄えた流山、布施河岸を結ぶ道もやがて衰退する時が来た。明治 23 年に利根運河が開通し、さら明治 29 年 12 月、田端・土浦簡に鉄道が開通し、翌年には総武鉄道が利根河口の銚子まで延び東京・銚子町間がわずか 4 時間 20 分。もはや大利根の水路は決定的ピンチを迎えた。川畔の米問屋が次々店じまいし、米蔵も廃屋化していく。

流山の広小路と布施弁天を結ぶ旧道だけでなく糧道を絶たれた流山のあらゆる道が活力を失ったことはいうまでもない。

＊注記　文章中下記は「諏訪道」のことを指す。

・栄えた流山、布施河岸を結ぶ道　　・流山の広小路と布施弁天を結ぶ旧道

6、東海寺の衰退

「東海寺」・・・『東葛流山研究』第 34 号（流山市立博物館友の会・平成 28 年・崙書房）

★明治から大正にかけて布施弁天は大きく衰退した。各地に鉄道が敷かれ、船で来る参詣客もめっきり減った。・・・遠く埼玉から諏訪神社に参詣し、さらに利根川ぞいの布施弁天にまで歩いてくる人もけっこう多かった。しかし昭和 45 年（1970)、広大な土地を持っていた布施弁天東海寺も、寺の改築費捻出のため、土地の一部を柏市に売却し、今そこがあけぼの山公園となっている。